

山上の説教から学ぶ (35) : 「求めよさらば与えられん」の意味～自己嫌悪を超えて

メッセージノート (2021. 10. 17)

質問：もし、これまで願ったことが、全て叶えられてきたとするなら、どんな人生になっていただろう？

マタイ 7:7-11 ⁷求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。戸をたたきなさい。そうすれば開けてもらえます。⁸ 求める人はだれでも与えられ、捜す人はだれでも見つけ出します。戸をたたきさえすれば開けてもらえるのです。⁹ パンをねだる子どもに、石ころを与える父親がいるでしょうか。¹⁰ 『魚が食べたい』と言う子どもに、蛇を与える父親がいるでしょうか。いるわけがありません。¹¹ 罪深いあなたがたであっても、自分の子どもには良いものを与えたいと思うのです。それならなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良いものを下さらないはずがあるでしょうか。(LB)

- 文脈の中で解釈：これまで前章で扱ってきた内容は、偽善的施し・祈り・断食、お金に対する弱さ、心配思（経済と人の評価）、無意識のうちに人を批判的に見る（内に秘めた劣等感；投影）という内容。
 - これらは、イエスが私たちの内にある「本当の姿」に気づかせようとしたことがわかる。その姿を目の当たりにする時、私たちは、この「山上の説教」の冒頭の言葉に立ち返ることになる。

マタイ 5:3-4 こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。
- このように自分の内面に目を向ける時、私たちは、そこに何を見、そして何を願うのであろうか？
 - 自分の未熟さ（心の貧しさ）と歪みの深さ（容易に取り除くことができないこと）であり、そこで、私たちは、神の恵みが不可欠であることを痛感させられる。
- クリスチャンとして、成長の無さや変化していくことの困難さに失望を覚えたことはないだろうか？正にその問題をここで扱っておられる。イエスは、私たちが成長への期待を諦めてしまうことがないように、ここで大切な勧め（具体策）を提供しておられる。
 - 聖書は、私を「最高傑作」というけれども、心のどこかで疑っていないだろうか？

1. 自分の必要を自覚する

- パウロの力の秘訣は、彼の意思の力ではなく、自力では何もすることができないという自覚にあった。「私はなんと惨めな人間だろう」（ローマ 7:24）。この自覚ゆえに、キリストにより、古い人生の行き方から解放された（ローマ 7:25）と言っている。
- この自分の中に問題を打開していく力が無いということの自覚こそが、まず神の恵みを受け取る前提となる。

ローマ 7:18-25
- 「正気」と「狂気」の違い：正気とは、事実に基づいて行動すること。狂気とは、毎回違った結果を期待しながら、同じ行動をすること（行動を変えない）。自分の弱さを自覚したら、その状況に陥らないように生活を再構築することだ。以前のパターンに陥れば、絶対に抜け出せないのだから。

2. 執拗に食い下がる

- 「求める」「探す」「叩く」：これらは、継続形を表す時制が使われており、求め続ける、探し続ける、叩き続けるという意味。また、これら3つの言葉が繰り返されているのは、その執拗さ、しつこさを強調するため。
- この執拗さは、諦めないということに関する執拗さである。失敗を繰り返す中で、諦めなくなる時、食い下が

るのである。失敗しても、もう一度立ち上がる姿勢である。性懲りも無く、何度でもやり直すことを強調する。

- ・ ここでは、自分の醜さと情けなさに、まっすぐ向き合った者が経験する「建設的痛み」（破壊的痛みでも、単なる鬱状態でもない）--- それをイエスは「心の貧しさ」と呼ぶが --- が導こうとする方向と心の姿勢について諦めるなど励ましているである。
- ・ ルカの平行箇所では、来客が夜中に突然やって来たが、提供するパンがないために、既に床に入って寝ていた友人を叩き起こしてまでしても、目的を達成するという例を挙げている。また、ルカ 18 章の未亡人が裁判をしてくれるようにしつこくせがんだ例もあるが、ここでは決して諦めないことが勧められている。
- ・ 旧約聖書の中で、神のご性質についての慣用句で、「主は恵み深く、哀れみに満ち、怒るに遅く、慈しみ豊かである」（詩篇 145:8）と繰り返し語られている。その理由は、私たちが、繰り返し失敗するからであり、その失敗を乗り越えながら成長していくことをご存知であるからだ。
- この心の向かう方向と姿勢こそが、信仰生活の肝である。そこを抜きにして信仰の成長はない。今どんな葛藤を経験しているだろうか？あなたは、主の赦しの愛、あなたを導き続けようとしておられる神の慈しみがどれ程深いのかを知っているか？神は私を裁いていると勝手に自分で見切りをつけてしまっていないか？
- 「孤独とは選択の結果である」と言われるが、あなたが失敗した時、神はどこにおられたのか？

3. 聖霊様と一緒に進む

- ・ 不完全な父親であっても、愛する子供のためには良いものを提供するのなら、天の父はなおさらのこと、私達が最も必要としているものを用意しておられる。だから与えない方が良いものは、くださらなかった。
- ・ 平行箇所であるルカの福音書を見ると、この「良いもの」とは「聖霊」であることがわかる。

ルカ 11:13 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。
- ・ なぜ聖霊様が、私達が一番必要としているものなのか？
 - a. 「良いもの」（アガサ）は、複数形で、聖霊によって与えられるいろいろな贈り物や祝福のことを意味している。それらは、私達が注文した通りのものではないが、私のことを一番ご存知の神が、一番良い時に、良い形で与えてくださる。そこでは、単に贈り物が優れているだけでなく、深い神の配慮と思いやりに裏付けられた深遠なる意義を見出すであろう。
 - b. 聖霊なる神との人格的交わり自体により重要な意味がある。
 - c. アブラハムは、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」（ヘブル 13:5）と語りかけてくださったお方と一緒に出かけたと語る。

*詩篇 73:26-28*²⁶ この身とこの心とは尽き果てましょう。しかし神はとこしえに私の心の岩、私の分の土地です。²⁷ それゆえ、見よ。あなたから遠く離れている者は滅びます。あなたはあなたに不誠実な者をみな滅ぼされます。²⁸ しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。 私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り上げましょう。

まとめ

1. 過去に祈りも求めたことで、叶えられなくてよかったと思うことは何か？
2. 自分の未熟さ（心の貧しさ）と直面させられる時、これまでどのような反応をしてきただろうか？今後は、そこでしか得られない神の優しさを経験する機会とするために、諦めずに求め続けるにはどうしたらよいか？
3. 神が共にいてくださることの意義をどこまで知っているか？神への信頼を妨げているものは何か？